

八重山地震津波での性別死亡比と全死亡率との関係

加藤祐三(琉球大学非常勤講師)

1771年八重山地震津波(明和の津波)では八重山諸島・宮古諸島で計12000人の死者が発生した。このうち、八重山諸島の死者9300人については、『大波之時各村之形行書』に集落別と性別の集計があり、津波前の人口と津波による死者が性別に示されている。地域別の死亡率を見ると八重山諸島のうち石垣島で高く、島全体では49%であり、島内では、島の南東～東海岸で高く77%以上の村が7村ある。これら被害激甚の村と、八重山諸島全体、石垣島全体を性別に注目して比較する。人口に占める女性の割合は、津波前はどこでも約52%であるが、津波後は全死亡率が上がると明らかに低下し、とくに、被害激甚の6村では29%にまで低下する(表)。なお、7村のうち1村では生存者がなく、したがって性差がないので除外してある。

災害弱者という言葉があり、身障者・病人・高齢者・幼児子供などが挙げられるが、性別に注目すると筋力の差であろうか、女性がこれらに次いで広い意味での弱者になっていたということが分かる。

比較のために他の大規模津波の資料と比較しようとしたが、八重山地震津波のような、津波前の性別人口が示された資料を発見できなかった。例えば明治三陸津波(1896)の記録、山名宗真『三陸大海嘯岩手県沿岸被害調査票』には性別の死者はあるが、津波前の性別人口はない。

八重山地域での津波前後の性別人口変化と全死亡率

	地 域	八重山諸島	石垣島	被害激甚6村
津 波 前	男	13,700	8,323	3,112
	女	15,039	9,026	3,460
	計	28,739	17,349	6,572
	女／計 %	52.3	52.0	52.6
津 波 後	男	9,676	4,645	494
	女	9,750	4,265	201
	計	19,426	8,910	695
	女／計 %	50.1	47.9	28.9
	全死亡率 %	32.4	48.6	89.4